

目 標 (平成8年3月制定、平成10年2月一部改訂)

1 私たちは、エネルギー使用の一層の効率化や、よりクリーンなエネルギーの導入により、貴重な資源の浪費を防止し、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量の削減に努めます。

- ・列車運行に関連して直接消費する単位輸送量あたりのエネルギーを平成13年度までに10%削減することを目標にします。
- ・自営火力発電所からの単位エネルギーあたりの二酸化炭素発生量を平成13年度までに10%削減することを目標にします。
- ・自営火力発電所ならびに燃料消費による二酸化炭素総発生量についても平成13年度までに10%削減することを目標にします。

2 私たちは、環境汚染物質やオゾン層を破壊する物質等は法令等に基づいて適正に管理、処理するとともに、可能な限りその削減や代替物質への転換を進めます。

- ・自営火力発電所で発生する窒素酸化物については、平成13年度までに40%削減することを目標にします。
- ・特定フロンを使用している冷房装置を平成13年度までに60%を特定フロンを使わない装置に置き換えることを目標にします。

3 私たちは、地球の浄化能力の負担を軽くするため、オフィスや事業所、駅、列車等からの様々な廃棄物を適正に処理するとともに、リサイクルとその削減に努め、また再生品、省資源製品の使用拡大に努めます。

- ・工場や工事で発生する廃棄物については、平成13年度までに再資源化率を70%にすることを目標にします。
- ・駅や列車から発生するゴミについては、平成13年度までに再資源化率を30%にすることを目標にします。
- ・事務用紙については、平成13年度までに再生紙の利用率を95%にすることを目標にします。
- ・水資源については、平成13年までに消費量を5%削減することを目標にします。

4 私たちは、多様な生命をはぐくむ自然環境を大切にするとともに、列車走行による騒音や振動などの低減に努め地域社会との調和を目指します。

- 毎年3万本の植樹を、グループ社員を中心に継続的に行っていくことを目標にします。
- 東北・上越新幹線については「住宅集合地域に準ずる地域」に引き続き、「住宅立地地域」における75dB対策に取り組むことを目標にします。

5 私たちは、地球環境にやさしい乗り物としての、鉄道の魅力の向上に努めます。

※削減目標については平成6年度を基準年度とします。但し、二酸化炭素総発生量については平成2年度を基準年度とします。

※平成8年3月に設定した目標について類似項目の整理を行い、また今までの実績などを考慮しレベルアップを行いました。

※今後も実績や技術の進展等を踏まえ、必要に応じて見直しを行うこととします。